

2月県議会の報告です。

石坂ちほ県議が行った一般質問と答弁の要旨を紹介します。

(3月4日)



絆再生事業 実態にあった支援を

ホームレスや病気、失業などで働けない生活困窮者に対して相談活動や居場所づくり、生活困窮家庭の子どもたちのための無料学習塾などをおこなう民間団体の取り組みに対する補助、「絆再生事業」について、国は来年度財源措置しないことから、県の単独事業として継続されることとなりました。しかし、補助額は一箇所100万円から50万円へ減額されます。

石坂県議は、この「居場所」を利用した男性が生活保護から自立し、ボランティアとしても関わって頑張っている実例を紹介し、「この居場所は家賃・光熱水費などで年間61万円。補助金50万円を超える分は持ち出しになる。実態を踏まえこれまでと同額とすべき」と要求しましたが、健康福祉部長は「相談事業については、全県で展開する就労支援センターが担う部分が多い」として、相談事業としての50万円を削減するとの立場でした。石坂県議は生活困窮者への支援はあくまで「相談と支援が一体」と強調。補正予算での対応も含めて前向きな検討を重ねて求めました。

若者サポートステーション 支援員の安定した雇用求める

県内3ヶ所にある「若者サポートステーション」は、働くことに悩みを抱える若者に寄り添い自立を支援する事業で、多くの若者を就労などの進路決定につなげています。一方で、毎年企画競争に応募して国に選定される方式のため、支援員の雇用が一年契約と不安定です。石坂県議は「最低でも3年程度の雇用継続ができるよう、抜本的改善を国に強く働きかけてほしい」と要望。産業労働部長は「少しでも早い段階で改善を国に要望したい」と応じました。

並行在来線・北しなの線 安全運行へ支援を

北陸新幹線開業に合わせて、長野以北の並行在来線はしなの鉄道北しなの線として開業します。現在のしなの鉄道は、労使合意に至らないままワンマン運転が行われており、北しなの線でもワンマン運転となる予定です。全国有数の豪雪地帯を走るにあたり、豪雪の時期を経た習熟訓練を行い、その間はツーマン運転にするなど支援し、県が責任をもって鉄道として存続させるよう求めました。

県の女性管理職の登用

長野県職員で課長級以上の管理職の比率は全体の3.4%と、全国45位の低さです。課長級以上の数値目標を持ってしっかりと取り組むべきと求めました。

質問を終えて…石坂

県会議員としての最後の質問は、私らしく、「弱い立場の人たちに、あたたかい県政の光を」という政治信条に沿って行ないました。あたたかい県政に!との願いをこめて。